

24 ICT 機器

授業中の教室を回っていて、自分が担任として授業づくりをしていた頃と一番違うなど感じるのは、ICT 機器の利用です。今では手元のタブレットを指で「シュシュ」とこするだけで、教室の大画面にその結果が反映されます。例えば、教科書の大事な部分に線を引くという活動も、さっと画面をこするだけで済みます。また子どもたちが書いたノートの一部を全体に紹介する際には、カメラで撮影しそれを拡大することで全体化ができます。体育科学習では以前はビデオでとっていた画像をテレビにつないでそれを見ながら自分の動きや友達の動きを確かめていたことも、今ではタブレット一つで簡単に撮り、再生し、繰り返せるといった具合です。他の教科に関しても様々な活動に、ICT 機器は大活躍です。

こうした ICT 機器を活用した学びのよさと大切さとともに、先生方に伝えているのは、ネット上の画像や動画を見て、ネット上にある答えを探して、見たつもり、やったつもり、分かったつもりになるのではなく、子どもたちがその手で本物に触れること、自分自身が実際に体験してみることに、自分で考えて答えを出すことです。

その意味では、例えば 3 年生 4 年生の教室で幼虫やさなぎから、トンボやモンシロチョウが羽ばたく姿を子どもたちが直接見たり、1 年生や 2 年生の子どもたちが朝顔や野菜の世話をし花を咲かせたり実を結ばせたりという活動は深い学びに通じるものだと考えています。